

平成26年度

彦根東高等学校（定時制） 学校評価

本年度の重点目標

- ・学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。
- ・基本的な生活習慣の確立を図り、集団生活における規律の確立を図る。
- ・学業と就労の両立を図り、生涯にわたる学びの基礎を培う

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	分掌と学年間の連携など、教職員間の協力体制を作っている。	A	A	A
	教職員の資質向上のため、研修会等の機会を計画し実施している。	B	B	B
2 学習指導	基礎学力を定着させるために、学習習慣の確立を図っている。	B	B	B
	授業計画（シラバス）に基づき、丁寧な学習指導を展開している。	B	A	A
	生徒の実態に即した指導内容を研究し、指導方法を工夫して実践している。	A	B	A
3 生徒指導	問題行動を未然に防止するための生活指導に努めている。	A	A	A
	基本的な生活習慣の確立のために日常的な指導を行っている。	B	B	B
	いのちの尊さを訴えるとともに、交通安全指導の徹底を図っている。	A	A	A
	教職員が一丸となり、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組んでいる。	A	B	A
4 進路指導	適正な進路選択と卒業時の進路保障に努めている。	A	A	A
	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路情報を提供している。	A	A	A
5 特別活動等	学校行事の工夫と魅力ある生徒会活動に努めている。	A	A	A
	生徒会専門委員会の活動を活性化し、高校生としての自覚と責任感を育むよう努めている。	B	B	B
	ボランティア活動の充実を図っている。	A	C	B
6 学校図書館	読書への興味・関心・意欲を涵養するため啓発に努めている。	B	B	B
	図書室の利便性を高め、生徒が積極的に利用するよう努めている。	B	B	B
7 保健・安全指導	定期健康診断を全生徒に受診させている。	B	B	B
	学業と就労を両立させるため、健康意識の啓発に努めている。	B	B	B
8 人権教育	教育活動の中に人権教育の視点を取り入れている。	A	A	A
	人権教育に関する計画的な指導を図っている。	B	B	B
9 環境教育	ゴミの減量化を図るとともに、省エネルギー意識の高揚に努めている。	B	A	A
	環境美化活動の充実を図っている。	A	A	A
10 事務・管理	諸会費等の期限内納入を確保している。	A	A	A
11 その他 学校の取り組み	来校者や電話に対して丁寧に対応している。	A	A	A
	生徒の就労先との連携を図っている。	B	B	B

(注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表

10月 中間評価（自己評価）の公表（8月までの教育活動に対する中間評価）A B C Dの4段階評価で示す。

3月 総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）A B C Dの4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・A B C Dの基準は、肯定的な評価が75%以上をA、50%以上75%までをB、25%以上50%までをC、25%未満をDとする。

学校のURL：<http://www.hikonehg-h.shiga-ec.ed.jp/>